

宮古発

真崎海岸清掃活動

宮古市田老地区の名勝・真崎海岸で、海水浴場の復活を願い、住民が清掃活動を行いました。海水浴場として



人気のあった田老の真崎海岸は津波によって防波堤や道路が大きな被害を受け、震災から4年以上たった今も遊泳禁止となったままです。清掃活動には住民20人ほどが参加し、海岸沿いに残ったごみやガレキなどを取り除いていました。主催者代表の田中和七さんは「田老のシンボルを守り、海水浴場の復活を待ちたい。」と話していました。(8/19 ニュースエコー)

宮古発

ソバの花満開



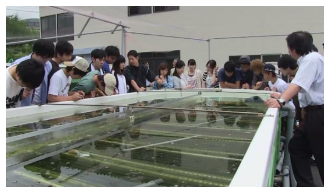
宮古市田老の野中地区の畑では、地元の営農組合「八幡ファーム」が種をまいたソバの花が咲き揃い、被災地を彩っています。農地の

広さはおよそ2ヘクタール。津波によって被災しましたが、県がガレキの撤去や表面の土を入れ替えるなどして復旧し、営農組合がそばを植えて農作業を再開。被災者の交流の場にもなっています。ソバは9月末には刈り取られ「田老のそば」としてイベントなどで提供されます。(8/20 ニュースエコー)

大船渡発

北里大生「里帰り」

震災の影響で大船渡市のキャンパスを閉鎖した北里大学の学生が、海洋実習で「里帰り」しました。大船渡市三陸町でアワビの養殖を



行っている北日本水産を訪れたのは、北里大学海洋生命科学部の2年生26人です。海洋生命科学部は震災前には大船渡市三陸町で授業を行っていましたが、震災後にキャンパスを閉鎖し、学生達は神奈川県相模原市で学んでいます。大船渡ではアワビの養殖施設を見学し、海水を使って稚貝の採取から2年ほどかけて出荷サイズに育てるまでの、独自のシステムを学んでいました。(8/21 ニュースエコー)

宮古発

河川の環境調査



津波で被災した自然の回復状況を学ぼうと、宮古市田老地区の小学生が川にすむ生き物を調査しました。調査は「田老地区復興まちづくり

協議会」が企画したもので、田老第一小学校の4年生17人が近くの神田川に生息する魚などを調べました。震災当時はガレキで覆い尽くされましたが、今回の調査ではカジカやカニなど多くの生き物が網にかかり、順調な回復ぶりがうかがえました。(8/21 ニュースエコー)

宮古発

ルーヴル出前講座

フランス・パリにあるルーヴル美術館のスタッフが岩手県立美術館の企画で宮古市を訪れ、美術館に展示されている名作の数々を紹介しました。今回はルーヴル美術館の美術教育担当を務めるアンヌ・ソフィ・ヴェルニュさんが、スライドでモナ・リザなどルーヴルが誇る名作を紹介しました。アンヌさんは「名作と呼ばれる作品には美しさや珍しさなどそれぞれの価値があります」と話し、訪れた大勢の市民は興味深く聞き入っていました。(8/22 ニュース)



大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週はみやこハーバーラジオの木村悠里さんが、開局2周年を迎えた「みやこハーバーラジオ」について伝えてくれました。2年前の8月26日に82.6MHzで放送を開始。お便りや応援メッセージなどを通して、リスナーの皆さんにも支えられていると日々実感しているそうです。今後も様々なイベント取材などを通じ、会場の盛り上げを伝えたり、多くの市民の皆さんの声を届けて、地域密着型の市民に愛されるラジオ局を目指して頑張りたいと話していました。(8/26)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122